令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 大宮南 小学校 ）　　学校番号　０４５

【様式】

目指す学校像	大宮南小学校で学ばせたいとの期待と信頼に応えられる学校

重点目標	１　個別最適な学びと協働的な学びの実現、GIGAスクール構想の推進 ２　安全・安心の教育環境の整備と教育相談体制の充実 ３　コミュニティースクールの充実と学校・家庭・地域のさらなる連携強化 ４　働き方改革の一層の推進、学校課題研究の推進

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和６年２月１５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	＜現状＞ ○全国学力学習状況調査では、概ね良好な結果である。また、無回答率が低い。 ○さいたま市学習状況調査でも、概ね良好結果である ○日頃の学習の様子から、タブレット端末を活用し、自分の意見を発信したり、友だちの意見を閲覧したりすることに意欲的に取り組んでいる。 ＜課題＞ ○全国学力学習状況調査で、国語科の「読むこと」の項目について市の平均を上回り、改善が図れたが、「書くこと」の項目が市の平均と同等の値である。 ○探究的な学習に関して、昨年度成果があったため、今年度も維持する。 ○タブレット端末の利用は進んでいるが、教員による利用の格差がある。	○個別最適化と協働的な学びに向けたタブレット端末の活用と授業改善	①全国及び市の学習状況調査の最新の結果をもとに、市教委の学力向上カウンセリング研修を受け、学校全体の児童の学力向上を図る。 ②ﾄﾞﾘﾙﾊﾟｰｸ・ｽﾀﾃﾞｨｻﾌﾞﾘの活用により、国語・算数の基礎・基本の徹底を図る。加えて、ｵｸﾘﾝｸ･ﾑｰﾌﾞﾉｰﾄの活用により、協働的な学習を推進する。	①調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを設定することができたか。 ②学期毎にタブレット活用調査を実施して、利用率が 70%以上となったか。	・学力向上カウンセリング研修を実施し、本校の学習状況調査の結果を指導主事から指導を仰ぎながら分析を行った。また、学校課題研究を通して、授業改善を行った。 ・エバンジェリストを中心に毎学期、教職員研修を行った。タブレット活用率は 80%で昨年度より１ポイント上昇した。また、さいたま市平均より 12 ポイント上回った。	A	○今後も学力向上カウンセリング研修を活用し、調査結果の分析を継続的に実施して、授業改善を進める。 ○スクールダッシュボード、Canva などの利活用を促進し、個別最適な学び、協働的な学びを実践していく。	・担任による指導の差がないようにしてもらいたい。教科担任制の導入は効果的である。 ・児童がタブレット端末を十分に活用できるようになったことは素晴らしい。次は、有効活用に向けて取り組んでもらいたい。 ・授業参観日として、児童が協働的に学び、思考が深められている様子が見られる機会を設定してもらいたい。
		○学ぶ楽しさを実感できる「大宮南小 STEAMS TIME」の実施	①「大宮南小 STEAMS TIME」において、探究的な学びを行う。	①指導計画通り、「大宮南小 STEAMS TIME」を実施できたか。 ②STEAMS TIME 実施後の児童アンケートにおいて、肯定的な回答の割合が 90%以上となったか。	・全ての学年で、年間指導計画通り実施した。 ・STEAMS TIME 実施後の児童アンケートにおいて、肯定的な回答の割合が 93.7%となった。特に、「あきらめずに試行錯誤しながら活動できたか」の質問に対する回答の割合 98.2%となり、探求的な学びの充実が図れた。	B	○教科横断的な学習、探求的な学習の充実に向け、年間指導計画の工夫・改善を今後も進めていく。	
2	＜現状＞ ○R4 学校評価（児童用）において、学校生活の充実に関する項目で、肯定的な回答が 90%以上であった。 ○「心と生活のアンケート」要面談者は、第１回は 17.9%であった。 ＜課題＞ ○コロナ禍によるストレスや生活環境の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、児童一人ひとりの変化にいち早く気付き組織的に対応することが課題である。 ○第 2 仮設校舎建築(R5.10～)に伴い、児童が安全に学校生活を送れるようなルール作りが課題である。	○児童一人ひとりへの細やかな教育相談体制の充実	①定期的な生徒指導・教育相談・特別支援教育委員会を開催する。 ②年２回児童理解研修を行う。	①学校評価アンケートの関連項目で肯定的な回答の割合が 90%以上となったか。	・定期的な生徒指導・教育相談・特別支援教育委員会の開催と、年２回の児童理解研修の他、生徒指導体制の構築を組織的に行った。学校評価アンケート関連項目肯定的評価は平均 94%であった。	A	○学校評価アンケート（保護者）に関しては、昨年度より 0. 5～0.7 ポイント上昇したので、組織的な生徒指導体制を来年度も継続していきたい。	・トイレの衛生面について、清掃面と使い方について、課題がある。清掃面については、次年度の清掃指導計画を見直す。トイレの使い方に関する指導については、家庭の協力も必要である。
		○安全・安心の教育環境の整備	①毎月の安全点検の確実な実施と修理・修繕等安全管理を徹底する。 ②仮設校舎建築に伴い、校内安全ルールを更新する。 ③けがマップの更新を行う。	①学校評価アンケートの関連項目で肯定的な回答の割合が 85%以上となったか。	・毎月の安全点検、修理、修繕を確実に行った。また、けがマップ等を更新し、校内の安全ルール等の徹底を図った。学校評価アンケート関連項目肯定的評価は 86%であった。	B	○仮設校舎建設に伴い、運動場が縮小した。休み時間の利用の仕方、体育の授業改善等、安全・安心な教育環境を整えていきたい。	
3	＜現状＞ ○昨年度の学校運営協議会の熟議「子ども達に身に付けさせたい力」を引継ぎ、「豊かにコミュニケーションが図れる力」をより一層充実させる。 ＜課題＞ ○目指す子ども像に向けて、学校・家庭・地域の役割分担を明確にする必要がある。 ○学校運営協議会での議論を家庭・地域にどのように広めていくかが課題である。	○学校運営協議会の充実	①学校運営協議会を年間３回実施する。	①学校運営協議会委員へのアンケート該当項目において肯定的な回答の割合が 90%以上となったか。	・今年度は、登下校に関する学校、家庭、地域の役割について熟議した。警察、教育委員会等の関係諸機関とも連携を図ることができた。独自アンケート関連項目肯定的評価は 87.5%であった。	B	・児童の健やかな育成のため、来年度も熟議の内容を絞り、中学校とも連携を図りながら進めていきたい。	・各委員が、それぞれの立場での考えを共有する場となった。 ・学校の抱える課題について共有し、解決策について十分な意見交換ができた。 ・地域で子どもを守り育てるという意識が強まり、システムとして機能し始めた。
			②学校 web ページにコミュニティースクールのサイトを新設して、情報を家庭・地域に広める。	②サイトの更新を年５回以上行ったか。	・学校 web ページにコミュニティースクールのサイトを作成した。 ・サイトの更新を現時点で２回行っている。学校だよりでも情報発信した。	B	・学校運営協議会に関する情報を家庭・地域に広める工夫を考えていきたい。	
4	＜現状＞ ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「体育科」の研究を進めてきた。 ○コロナ禍で学校行事・諸会議の精選を進めたことで職員の在校時間の縮減につながった。 ＜課題＞ ○昨年度から学校課題研究として、「ユニバーサルデザインと個別最適な学びの視点を踏まえた授業改善」～「わかる」「できる」と感じる全員参加の授業を主題として研究を進める。 ○ポストコロナの教育活動について、行事、校外学習等、検討する必要がある。	○校内研究体制の充実	①授業研究中心の研修計画を立てる。 ②外部講師を招いて研修会を行う。	①研修に関する教職員へのアンケートで肯定的な回答の割合が 90%以上となったか。 ②外部講師による研修会を２回以上、授業研究会を２回以上行ったか。	・研修に関する教職員へのアンケートの肯定的な回答の割合は、96.9%であった。特にＩＣＴ等を活用した個別最適な学びのため指導の工夫への意識が高まった。 ・外部講師による研修会を２回、授業研究会を２回行うことができた。全教職員対象の管理職による授業参観も実施した	A	・次年度はカリキュラム・オーバーロードの解消に向けた教育課程の研究を行う予定。	・教員が互いに学び合える場を確保してもらいたい。 ・通知表作成に費やす時間を、個人面談のための時間に転換してもらいたい。 ・これからも、ユニバーサルデザインの視点をもち、児童一人ひとりをよく理解し、児童に寄り添った指導を続けてもらいたい。
		○質的な働き方改革の推進	①当初面談において、質的な業務改善への取組を指導助言する。 ②業務の平準化を視点とした校務分掌の見直しを行う。	①教職員への独自アンケートにおいて肯定的な回答の割合が 90%以上となったか。	・当初面談において、よりよい働き方（時間の使い方、仕事の優先順位等）の指導、助言を行った。ストレスチェック集団分析の結果、健康リスクは良好な結果となった。 ・職場環境に関するアンケートでは肯定的な回答は、66%だった。	B	・業務の平準化を視点とした校務分掌の見直しが更に必要である。部活動の在り方についても検討が必要である。	